

漁師「海を汚すな」

第2の基地県・神奈川で人体に有害な有機フッ素化合物PFA (ピーファス) の流出が相次いで発覚しています。米軍は原因究明や実態調査に背を向ける中、日本共産党県議団がPFA問題を初めて取り上げ、原因究明を迫っています。（斎藤和紀）

第2の基地県 神奈川

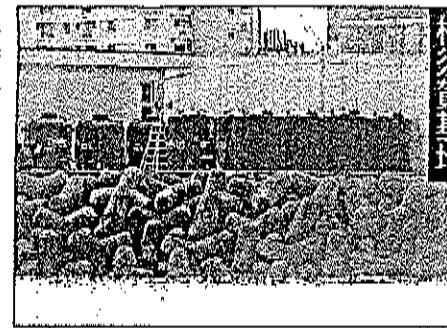
「消費者に安全なものを食べてほしい。海を汚さないでほしい。これが本心です」。漁師の小松原哲也さん（80）は、横須賀の海を眺めながら声を震わせます。

目標値の25倍も

2022年5月4日、米



横須賀基地



機関基地の排水処理場に設置された粒状活性炭フィルター（写真：カタハラ提供）

漁師になった時に父親からもらった漏れ水ヘルメットを見せる小松原哲也さん＝2月20日、神奈川県横須賀市

たものです」と語って倉庫

汚染源調査拒む

から続く漁師の家に生まれた小松原さんは、14歳から漁を始めました。「漁師になった時に父が買ってくれたのです」と語って倉庫

米側はPFA対策として

海軍横須賀基地（横須賀市）の排水から「特異な泡」が確認されました。米側がPFAの一つであるPFOA (ピーフォア) が暫定目標値の約2倍検出されたと通知したのは6月29日でした。9月末には、PFA

Sの一つであるPFOS (ピーフォス) が目標値の258倍である1万2900ナノモル検出されました。横須賀基地から南東約2キロの新安浦港で、江戸時代から続く漁師の家に生まれた小松原さんは、14歳から漁を始めました。「漁師になった時に父が買ってくれたのです」と語って倉庫

後を継いだ息子には「海は生き物だ。大事にするんだ」といつも語り聞かせてきました。それだけに米軍に憤ります。「息子や孫はここで取れたものをよく食べる。PFAが体内に蓄積して、病気にならないか」と懸念します。

また、米軍が行った汚泥や排水をためる施設の水の調査結果も公表しないことになりました。「原子力空母の横須賀母港問題を考える市民の会」共同代表の東正彦弁護士は、「立ち入り」をきっかけに、日米合同委員会が情報を管理し、住民に出てなくなったり。逆効果になっている」と批判。環境補足協定に関する調査方法や範囲を決めるのが米軍次第ではダメだ。当時外相だった岸田文雄氏が協定に署名したが、米軍言いなりになる日本政府の責任は大きい。ドイツの協定は事前通告なしで調査ができる、同じような仕組みが必要だと強調します。

小松原さんは「汚染が広がれば東京湾全体の問題になる。安全だと分かるまで海産物や土壤などを調べてほしい」と訴えます。

追及

PFA

有機フッ素化合物



（写真：カタハラ）

（2面）